

CASE
02

長崎医療センター

病院全体で患者さんに最良の方法を考える。
幅広い視点での対応が総合診療の本質です。

長崎医療センター 総合診療科・総合内科医

和泉 泰衛

地域で活躍できる総合診療医

当院では総合診療科・総合内科を分けていません。現在は常勤の医師が5名、レジデントが4名という体制です。総合内科専門医が2名、家庭医療専門医が2名、あとは内科医です。

総合診療の魅力は幅広さだと言われますが、日本ではもともと内科医が多く、結局、内科に偏りがちです。私の若い頃は医局に入るのが当たり前で、大学卒業の時点で内科に決め、さらに消化器内科や循環器内科に行くぐらいまでをイメージして研修が始まりました。小児科や整形外科の研修もなく、家庭医のコースもありませんでした。

でも、総合診療を学んだ人たちは全然違います。たとえば、診療所で1人の場合、内科医は小児科や外科の患者さんに少々抵抗がありますが、総合診療医は小児科や整形外科まで幅広く診れます。実際に島での診療を見ていると、そういう対応ができる先生たちこそ、地域で役に立ち、どこ

でも活躍できる医者になります。

ただ、そういう存在の必要性がなかなか伝わらない。開業医も大半が内科や外科出身で、家庭医がもともと少ないのが現状です。また、大学にもほとんどいませんから、逆に、本物の総合診療医や家庭医療専門医を身近で見るとロールモデルとしてイメージしやすい。私自身、当院に来てはじめて彼らのすごさを認識しました。

総合診療医に求められる資質とは

来る者は拒まず、何でも診る。それが総合診療の基本だと思います。専門科だけでは対応できない症例など、相談があったらとりあえず何でも診に行き、その後、どうするかを判断する。全部を引き受けるのではなく、必要があれば専門医と連携しながら、患者さんに対応するのが我々の仕事です。

そのため、総合診療に欠かせないのがコミュニケーション力です。様々な診療科の先生とのやり取りが必要で、患者さん、ご家族、地域、コメディカルまで関係者が非常に多い。また、マネジメント能力がないと信頼されません。逆にそこがうまくいくとリスペクトされますし、楽しいですね。当院のように規模の大きい医療機関で総合診療を行うのは、きつい場面もありますが、他科との連携がスムーズなのは患者さんにとっても幸です。私が診るというより、病院全体で対応するというスタンスが構築できる点にすごくやりがいを感じます。

総合診療に興味を持つ人へ

本当にやりたいことを見つけるためにも、いろいろな経験を積むことが大事です。経験は絶対に無駄になりません。毎年、総合診療や総合内科を志望する人が来ますが、家庭医の先生たちに直接、教えてもらえるのは非常に良いことです。大学で出会わず、内科でも習わない総合診療という視点に自然と意識がいくのは非常に良い経験になると思います。研修中にそういう視点を身につけておけば、専門にいても幅広い視点で患者さんに対応できるので、将来、きっと役に立つはずですよ。



指導医の声

オールフィールドで活躍できる存在。
それが総合診療医だと思います。

長崎医療センター
総合診療科・総合内科
森 英毅

医療には患者さんの年齢や性別、急性期か慢性期か、在宅か救急かなど、様々なシーンがあります。それぞれが重要で専門的なアプローチが必要ですが、それにとらわれず、どこに行っても、どんな場面でも、オールフィールドで活躍できる。それが総合診療医の定義ではないかと考えています。

総合診療はよく、広くて浅い領域だと言われます。しかし、実際に携わる立場になるとそうではなく、むしろ広くて深い領域なのだと感じます。病気だけではなく患者さんやそのご家族、地域全体を視野に入れて診る必要があるからです。疾患の診断や治療だけでなく、非常に幅広く、学ぶことが次から次へと出てくる深いジャンル

です。そこが難しくもあり、魅力ですね。

私自身にとっては、総合診療医、総合内科医は非常に楽しくやりがいのある仕事です。病気だけでなく、人を診るという医師の原点に近い部分がありますから。

一方で、進路として選ぶ人が少ないのは、キャリアパスが見えにくい部分があるからだと思います。実際の声を聞いてみると、総合診療に興味を持っている学生さんは決して少なくありません。教育システムをきちんと構築して道筋を明確にしていくことも重要だと感じています。

当院では、総合内科医、総合診療医、専門医、いずれの希望者も当院を基幹にして、プライマリケア、家庭医療、総合診療のトレーニングができる体制を整えています。この領域に興味のある方には充実した環境だと思っています。



専攻医の声

科の垣根を越えて診療できる医師に。
地域に貢献する家庭医が目標です。

長崎医療センター
総合診療科・総合内科
阿部 千鶴

大学6年生の臨床実習で、離島の病院で研修をしました。島内には1つしか病院がないので、先生方が総合内科として診療されている姿がとても印象的でした。通院できない方には訪問診療で対応するなど、地域に根ざした医療に魅力を感じました。その後、いろいろ調べると、自分の理想の医師像は家

庭医に近いと思い、専門として総合診療の道を選びました。

当院の研修では毎回毎回、発見の連続です。週1回は専攻医のためのミーティングがあり、手厚くご指導いただき、疾患だけでなく家族や地域も含めて診るという医師として身につけておくべき資質が学べているように思います。将来的には地域に根差したかかりつけ医として、予防医療の推進や、離島・僻地の医療にも関わっていければと考えています。



長崎医療センター DATA

■ 所在地
〒856-8562 長崎県大村市久原2-1001-1
<https://nagasaki-mc.hosp.go.jp>

■ 病床数
643床（一般610床、精神33床）

■ 診療科目

内科 / 血液内科 / 内分泌・代謝内科 / 腎臓内科 / リウマチ科 / 精神科 / 神経内科 / 呼吸器内科 / 肝臓内科 / 消化器内科 / 循環器内科 / 感染症内科 / 緩和ケア内科 / 腫瘍内科 / 小児科 / 外科 / 消化器外科 / 乳腺外科 / 内分泌外科 / 小児外科 / 呼吸器外科 / 整形外科 / 形成外科 / 脳神経外科 / 心臓血管外科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 産婦人科 / 眼科 / 耳鼻咽喉科 / リハビリテーション科 / 放射線科 / 麻酔科 / 病理診断科 / 臨床検査科 / 救急科